

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下地芳郎	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・観光政策論、国際観光論、サービス経営人材育成事業(通訳サービス、MICEビジネス論)等を通して具体的事例や外部講師等との議論を踏まえて「実践的」な教育を行う。授業の成果の一部は自治体や企業等の活動に反映させる。 ・ゼミ指導教員、ゼミ活動の強化及び次年度就職活動に向けての指導を行うとともに、琉球大学観光研究サークル「琉球ツーリズムクラブ」の顧問として活動を支援する ・かりゆし人材育成基金総括担当者として同研修制度の一層の強化を図る 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学科担当科目については、実践的な教育強化のため外事例研究や部講師活用を図った。経済産業省事業「サービス経営人材育成事業」については、事業全体の総括担当として、学内外連携を強化した。またゼミ活動やかりゆし海外人材育成事業についても強化を図った。 		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄観光の新たな展開についての基礎調査を行う。 ・沖縄ツーリズム学会を設立し、県内外の産学官連携による沖縄観光振興策の研究を行うとともに、研究成果は学会や講演会等で発表する 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・法定外目的税研究の一環としての論文「環境協力税の導入に関する考察」を執筆し観光科学研究科紀要第8号に掲載した(共著)。沖縄ツーリズム学会設立については関係者と協議を進めている。 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学が進める「地(知)の拠点整備事業」の一環として市町村観光行政の支援に取り組む ・沖縄県及び市町村、経済団体等における各種委員会活動を通じた地域貢献を行う 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県事業(MICE振興委員会委員長、景観審議会会長、世界遺産保全活用委員会委員、県立博物館美術館委員他)及び市町村事業(那覇市観光審議会会長、中小企業振興審議会会長、景観審議会会長、宮古島市総合計画審議会会長等)を支援した。 		
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長として、観光産業科学部の改組に向けて学部内外との連携を図り平成30年度の新学部設置を目指す ・学部長として両学科長及び全年次指導教員と連携した学生の履修状況、大学生活の支援を行う 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長として学部改組に取り組み28年度内の文科省申請に繋げた。また、両学科長とのコミュニケーションを図り学科横断型事業(海外研修やサービス経営人材育成事業)を強化した。 		
					0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		所 属		職 名	
荒川 雅志		観光産業科学部観光科学科		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	3.00	3.00	<p>●【学士教育プログラムの目標に沿った教育の実践】</p> <p>学科特色科目「ヘルスツーリズム論」では、URGCC学習教育目標のすべてが学部教員平均値を上回っており目標は達成できた。座学のみでなく校外での体験実習を多く取り入れた授業構成に対し授業評価アンケートで好評価の記述が多数見られ地域特色ある講義が提供できている。</p> <p>●【外部研究者、実務家等との共同による社会ニーズに沿った講義提供】</p> <p>日本の大学で初のスバ実践的講義「スバマネジメント論」では、日本最大のスバ業界団体のNPO日本スバ振興協会、沖縄県エステティックスバ協同組合の後援を得て、スバ業界で活躍する第一線の講師陣を招聘してオムニバス形式で実施した。この様子は県内外メディアに取り上げられ対外的評価を得た。本学の知の拠点大学の一環として公開授業とし、全国から21名の社会人が参加し、修了証書を授与した。</p> <p>特殊講義「海洋レジャー産業論」を新設開講した。本講義は世界最大のダイビングライセンス団体PADIアジアパシフィックジャパン、NAUIの協力のもと外部招聘講師を招いてオムニバスで実施した。海洋レジャー、環境教育、海洋工学などで構成した講義とフィールド実習としてスクーバダイビングライセンス資格(Cカード)取得を可能とした。</p> <p>●【就学指導、就職活動の支援】</p> <p>ゼミ学生を対象に進路調査・指導をこまめに実施した。就職希望者を母数とする就職率は100%を達成した。</p>		
研究	3.00	3.00	<p>●【科研費代表者、分担研究者としての研究遂行】</p> <p>研究代表1件、分担研究3件に採択され(継続)当該研究を遂行した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 荒川雅志研究代表「ヘルスツーリズムのエビデンス基盤構築」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(C)) 2) 荒川雅志分担研究者「原発事故後の親子の生活・健康変化の実態解明と社会的亀裂修復に向けた介入研究」(2015～2017年度・文科省科研基盤研究(A)) 3) 荒川雅志分担研究者「メンタルヘルスツーリズムの展開」(2014～2016年度・文科省科研基盤研究(B)) 4) 荒川雅志分担研究者「生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究」(2014～2016年度・日本医療研究開発機構研究費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業)) <p>●【産官学連携の共同研究、受託研究等、外部資金の積極的な獲得】</p> <p>受託研究2件を獲得し研究を遂行した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成28年度ライフスタイルイノベーション事業「沖縄健康長寿サービスの研究開発～世界初の海水運動活動量・消費カロリー測定システム研究開発～」獲得(2,513千円) 2) 平成28年度ウェルネスリゾート推進事業「沖縄ノルディックウォーキングのコース開発および効果検証研究」(280千円) <p>●【学術誌、学会における成果発表】</p> <p>国際学術誌6件、国内学会発表11件(共同連名)、著書1件(分担)、専門業界誌への寄稿4件と一定の成果を挙げた。 (研究論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Furukawa S, Arakawa M. Manganese intake is inversely associated with depressive symptoms during pregnancy in Japan: Baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. J Affect Disord, 15(21):124-129 2017 2) Tanaka K, Miyake Y, Furukawa S, Arakawa M. Perinatal smoking exposure and behavioral problems in Japanese children aged 5 years: The Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Environ Res., 151:383-388 2016 3) Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Furukawa S, Arakawa M. Soy isoflavone intake and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Eur J Nutr. 2016 4) Tanaka K, Miyake Y, Furukawa S, Arakawa M. Pre- and postnatal smoking exposure and risk of atopic eczema in young Japanese children: a prospective pre-birth cohort study. Nicotine Tob Res 2016 5) Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Furukawa S, Arakawa M. Milk intake during pregnancy is inversely associated with the risk of postpartum depressive symptoms in Japan: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Nutr Res., 36(9):907-913 2016 6) Tanaka K, Miyake Y, Furukawa S, Arakawa M. Perinatal smoking exposure and behavioral problems in Japanese children aged 5 years: The Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. (151):383-388 2016 <p>(学会発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Dong Erwei, Arakawa M. Pass, Present, and Future: World Leisure and Recreation. The 46th National Congress of Leisure and Recreation studies, Tokyo 2016. 2) 豊見山佐妃, 荒川雅志, ほか. 災害時要援護者における避難体制の課題とあり方に関する一考察～ホテル火災避難訓練をもとにした検討～. 日本レジャー・レクリエーション学会第46回学会大会, 東京 3) 高屋優, 荒川雅志, ほか. 保健指導型ヘルスツーリズム「宿泊型新保健指導プログラム(スマート・ライフ・ステイ)」の事業化に向けた検討. 日本レジャー・レクリエーション学会第46回学会大会, 東京 4) 図師里佳, 荒川雅志, ほか. 海洋レジャー健康増進施設内運動量の可視化とサービス応用. 日本レジャー・レクリエーション学会第46回学会大会, 東京 5) 加藤淳一, 荒川雅志, ほか. スクーバ・ダイビングによるレクリエーション効果. 日本レジャー・レクリエーション学会第46回学会大会, 東京 6) 喜瀬真雄, 荒川雅志, ほか. 障がい者ダイビングのレクリエーション効果～障がい者と健常者の比較～. 日本レジャー・レクリエーション学会第46回学会大会, 東京 7) 喜瀬真雄, 荒川雅志, ほか. 沖縄県内の農村地域と都市部におけるウォーキングイベント参加者のロコモ度テスト結果. 第26回九州農村医学会, 沖縄 8) 喜瀬真雄, 荒川雅志, ほか. 障がい者ダイビングの精神心理的効果の検証 一気分プロフィール調査表「POMS」を用いて. 第1回国際ICT利用研究学会全国大会(IIAR) 2016 9) 松下まどか, 加藤綾子, 矢部大介, 小熊祐子, 佐野喜子, 榊山舞, 荒川雅志, ほか. 宿泊型新保健指導プログラム(Smart Life Stay Program; SLS) -方法と進捗. 第59回日本糖尿病学会学術大会, 2016 10) 劉大漫, 中村誉, 安田実加, 野村恵里, 栄口由香里, 松下まどか, 村本あき子, 矢部大介, 小熊祐子, 八谷寛, 荒川雅志, ほか. 宿泊型新保健指導(Smart Life Stay)における食プログラムが生活習慣の変容に及ぼす効果. 第23回未病システム学会, 2016 11) 小熊祐子, 松下まどか, 村本あき子, 野村恵里, 矢部大介, 佐野喜子, 八谷 寛, 荒川雅志, ほか. 宿泊型新保健指導(Smart Life Stay)における運動実施の行動変容について. 日本臨床運動療法学会, 2016 <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 荒川雅志(2016) 沖縄健康長寿ダイエットプログラム, 沖縄食材図鑑. :10-17 <p>(専門業界誌への寄稿など)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 荒川雅志(2016) ヘルスツーリズムとは何か, 環境文化の創造クリンネス, 371:2-7 2) 荒川雅志(2016) ヘルスツーリズムにおけるスバの位置づけ, 週刊ホテルレストラン, 51(40):65-67 3) 荒川雅志(2017) 美と健康の観光立国へ, 新たなツーリズムの確立, creabeaux., 89:2-5 4) 董二為, 荒川雅志(2017). 日本家庭旅游, Tourism Planning and Design 旅遊規劃 北京大学No.22 		

社会貢献	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ●国県市町村等の委員会等への参画 ●産官学連携の共同研究、受託研究等成果の輩出 ●各種講演、講義の提供 	<p>知の地域創生拠点大学の社会貢献に資する国県各種事業への参画、委員参画、講演等を精力的に実施した。</p> <p>●【国県市町村等の委員会等への参画】 平成28年度生涯活躍のまち石垣版CCRC基本構想策定委員長 平成28年度沖縄県商工労働部「健康食品ブランド化推進基盤構築事業」講師 平成28年度沖縄県商工労働部「沖縄ブランド商品創出促進支援事業」審査委員 平成28年度沖縄県文化観光スポーツ部「地域健康力アップ推進事業」アドバイザー 平成28年度沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄食文化保存普及継承事業検討委員会」議長 平成28年度南城・八重瀬広域創生スタートアップ事業検証委員会委員 平成28年度うるま市石川地域活性化推進協議会委員 平成28年度沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定業務WG委員 平成28年度うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」委員（～平成29年3月） 平成28年度沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄観光ハリアフリー・アドバイザー派遣に関する委員会」委員長</p> <p>●【産官学連携の共同研究、受託研究等成果の輩出】 1)平成28年度ライフスタイルイノベーション事業「沖縄健康長寿サービスの研究開発～世界初の海水運動活動量・消費カロリー測定システム研究開発～」でカリュシカナンタラソグラナとの産学連携に従事 2) 沖縄県 平成28年度ウェルネスリゾート推進事業「沖縄ノルディックウォーキングのコース開発および効果検証研究」で前田産業ホテルズとの産学連携に従事</p> <p>●【外部講義・講演等の社会活動】(単独講演または共同講演) 荒川雅志。「からだで語り共同開発・沖縄健康長寿弁当試食会&プレスリリース」2016年5月、福岡 荒川雅志。琉球大学公開講座「ヘルスツーリズム人材育成シンポジウム」2016年6月、那覇ほしぞら公民館 荒川雅志。琉球大学公開講座「琉球文化交流シンポジウム」2016年6月、うるま市石川舞天館 荒川雅志。「なぜ海は体にいいのか～健康を手に入れる沖縄ライフ～」大和ハウス工業主催沖縄移住セミナー、2106年7月、東京大和ハウス工業本社 荒川雅志。「ウェルネスフードジャパンセミナー」2016年8月、東京ビックサイト 荒川雅志。沖縄スポーツ産業クラスター・シェルパ会合「沖縄スポーツ産業における産官学連携の取り組み～スポーツ×多職種・異業種の新しい連携プラットフォーム形成」2016年8月、内閣府沖縄総合事務局 荒川雅志。新潟県十日町沖繩視察団研修講義「行きたいまちから住みたいまちへ地方創生～健康×医療×福祉×文化×食×農×環境×IT×スポーツ×観光の次代の価値提案」2016年9月、琉球大学 荒川雅志。ダイエツト&ビューティフェア2016「沖縄スーパーフードを通じたインナービューティーで次代の価値提案をアジア・世界へ」2016年9月、東京ビックサイト 荒川雅志。スバ&ウェルネスジャパン2016日本のスバトップリーダー100人会議「スバマネジメント論ダイジェスト講座」2016年9月、東京ビックサイト 荒川雅志。第1回生涯活躍のまちづくり「沖縄版CCRC」の可能性を探るシンポジウム2016年9月、琉球大学 荒川雅志。石川地域活性化協議会設立発表会「アジア世界の闘牛のメッカへ沖縄センターに位置する地理的特性を活かした石川地域活性化への期待」2016年10月、うるま市石川舞天館 荒川雅志。韓国経済協力圏の産業育成事業MICARE産業(目的型ウェルネス観光)生態系育成支援事業、韓国ヘルスツーリズム協会設立準備委員会講義「ニューツーリズムと海洋ウェルネス」2016年12月、韓国済州島 荒川雅志。沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定業務WG委員会「次代の観光/日本再興戦略～ニューツーリズム、ウェルネスツーリズム～」2016年12月、全国市町村会館(東京) 荒川雅志。琉球セラピスト基礎講座「琉球精神文化の健康資源の価値」2016年1月、ユインチホテル南城 荒川雅志。外務省主催国際女性会議WAW! 2016「美と健康を手に入れる旅～長寿の知恵と資源に触れる沖縄健康長寿ダイエツトプログラム～」2016年1月、EMウェルネスコストバスタ 荒川雅志。健康博覧会沖縄スーパーフードセミナー「沖縄素材の機能性価値創出～アスリート向け琉球もろみ酢開発の科学的アプローチ～」2017年2月、東京ビックサイト 荒川雅志。琉球大学公開講座生涯活躍のまちづくり人材育成セミナー「健康福祉と観光の融合」2017年3月、石垣市福祉センター</p>
管理運営	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ●全学委員会、学部委員会の委員参画 ●学科内役割分掌における業務の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ●【全学委員会、学部委員会の委員参画】 ●【学科内役割分掌における業務の遂行】 <p>担当する各種委員会定例会議に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会委員(全学) 2) 島嶼防災研究センター運営委員会委員(全学) 3) 自己評価委員会委員(学部) 4) 健康運動系科目企画小委員会(学部) 5) 学科時間割配当表担当(学科) 6) 1年次指導教員(学科)
	0.00		0.00
計	10.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。		<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松本 晶子	所 属		観光産業科学部 観光科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 考える力を身につけた学生を育成するための授業の工夫 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 学生からの積極的な意見の聴取 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らしたシラバスを毎回提示した 考える力を身につけた学生を育成するためにアクティブラーニングを取り入れた 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善をおこなった
研究	0.65	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等学外研究費の応募と獲得 学外研究会等への積極的な参加 学術雑誌への投稿、学会での報告 学会誌編集員としての活動 		0.65	<ul style="list-style-type: none"> 新規科研費を獲得した 新規科研費に応募した 10月に日本人類学会に参加、発表した 3編の論文を国際学術雑誌への投稿した 3つの学会誌の編集員として活動した 平成28年度女性教員短期研究専念制度により10月から3月の期間、名古屋大学、カリフォルニア大学等にて4回のトークをおこなった
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学外の審議会、委員会等への参画 国際貢献への取組 他機関における教育支援 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋大学において客員教員として教育支援をおこなった NHKのネイチャー番組の作成支援をした
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局および学科における委員会での業務の遂行 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 前期、所属部局および学科における委員会の業務に携わった
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大島順子		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	准教授		業 務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
領 域 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業 務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<p>①学生の効果的且つ効率的な教育環境の構築をめざし、授業運営に関する連絡(特に予習・復習の徹底)体制強化及び修学のモチベーションを高めることを目的に、担当する科目すべてにおいてe-learning(WebClass)を活用する。</p> <p>②URGCCの学習達成目標に繋がるアクティブラーニングの具体的な手法の構築を目指し、専門教育で担当する授業においてポートフォリオに取り組む。</p> <p>③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。</p> <p>④現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド(特に、やんばる地域)を活かしたゼミ活動を他学部との連携及び地域住民の支援を受けて取り組む。</p>	0.30	<p>①目標設定の通り、e-learning(WebClass)の活用を4科目において導入し、学生に浸透させることができた。予習(Study Guideをダウンロードし、事前学習に取り組む)を行わないと授業に積極的な参画ができない状況をつくり上げ、閲覧回数を向上させることができた。(例えば、「エコツーリズム入門」及び「環境教育論」における【資料】閲覧回数合計は、996回と928回であり、学生一人当たり15回の授業において22.6回、28.1回閲覧したことになる。)e-learningについて効果的な活用方法を学び、今後も授業に活かしていきたい。</p> <p>②「エコツーリズム入門」と「環境教育論」においてポートフォリオ及びアクティブ・ラーニングの方法を取り入れることができた。学生へのアンケート結果をもとに教授法についての実践報告をまとめている。</p> <p>④ゼミ活動を農学部との連携及び地域指導者の協力のもと合計10日間取り組むことができた。</p> <p>■後期のゼミ活動(観光学演習)が本学のCOC事業における地域志向教育に採択され、学生にとっても成果を視覚化できる良い機会となった。</p>	
研究	0.30	<p>①特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「やんばるの自然資源の保全と適正利用のための地域住民の理解を作り出す仕組みの提案」(基盤研究C)の研究代表者として第三年度の研究を遂行する。</p> <p>②産官学受託事業として林野庁沖縄森林管理署の外部資金の獲得を目指し、「平成28年度希少野生生物保護管理事業(沖縄島北部)」担当者(契約主体:琉球大学)として、国有林野の利活用における調査研究および提言を行う。</p> <p>③農学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行する。</p> <p>④上記①～③の成果及び社会貢献活動③の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿する。(国際1件、国内1件)</p> <p>⑤8月6～7日に開催される日本環境教育学会(学習院大学)にて、口頭発表を行う。</p> <p>⑥国内の専門分野の学会誌の査読委員を担当する。</p>	0.30	<p>①・第三年度の研究は順調に進んだが、後期に担当ゼミが「地域志向教育」に採択され多忙となったことに加え、当初計画の地域での基礎講座開講に向けての調整に想定以上の時間がかかり、期間延長申請を行った。</p> <p>・⑤および⑥での発表は、①の成果発表の一部である。</p> <p>②受託した林野庁沖縄森林管理署の事業は計画通り遂行することができた。</p> <p>③森林調査は共同研究として継続している。</p> <p>④当初年度内の投稿に向けて執筆予定であったが、体調を崩したこともあり投稿は次年度へ延期することにした。</p> <p>⑤日本環境教育学会・東京大会(8月6～7日)において「野生生物の観察作法を学び 適切な行動を導く学習ーワイルドライフ・ツーリズムにおける環境教育の役割ー」と題した口頭発表及び「観光の教育力と環境教育」と題する自主課題研究会を実施した。</p> <p>⑥査読の担当依頼は特に無かった。</p> <p>■Wildlife Tourism conference(オーストラリアSW州アデレード:11月7日)にて、「Issues of commercial birdwatching tours in Japan: Photographing wildlife versus Watching wildlife」と題した口頭発表を行った。</p> <p>■本学大学院発行の観光科学研究第8号へ研究会の成果物として『観光の教育力の構造化に向けて』(単著)を投稿、掲載された。</p> <p>■一般社団法人化された日本環境教育学会の代議員に当選し、学会活動に積極的に関わることになった。</p>	
社会貢献	0.20	<p>①沖縄県の自然環境保全審議会等、審議会委員に継続して参画する。</p> <p>②沖縄県内自治体の各種委員会の委員に継続して参画する。 上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な(学術的及び統計的)情報を教育研究に活かすよう努める。しかしながら、審議会や委員会の再任にあたっては就任の削減に努める。</p> <p>③公開授業(2科目)の提供及び公開講座「ヤンバルクイナの一」(4月23～24日)、「ヤンバルクイナを育む畜産の里・国頭村楚洲を学ぶ」(11月5日)、及び「やんばる山学校」(11月26～27日)の担当教員として地域の指導者と学部の教員と共同で開催する。</p> <p>④JICA研修及び沖縄県かりゆし長寿大学における講義の担当ならびにカリキュラム作成にあたっての協力を行う。</p> <p>⑤平成27年度に引き続き、免許状更新講習3件を提供する。</p>	0.20	<p>①沖縄県の振興審議会、自然環境保全審議会及び沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会(村づくり課)等の委員(計3件)として、専門性を活かした審議に参画した。</p> <p>②恩納村観光審議会の委員として、観光振興計画策定に関わり専門性を活かした計画づくりに携わった。</p> <p>③公開講座(3講座)で地域の組織(国頭村森林組合)と地域指導者と連携して約30名の受講生を受け入れ、好評のうちに終了することができた。成果分析を元に生涯学習教育研究センターの紀要に論文を執筆中である。</p> <p>④JICA研修における講義(計6時間)、沖縄県かりゆし長寿大学における講義(計4時間)及びカリキュラム作成にあたっての支援(相談、教材選び等)を行った。</p> <p>⑤免許状更新講習3件(琉球大学及び宮古島)を提供した。「学校における環境教育とESDへの取り組み」を依頼され担当した。</p> <p>■本学COC事業の一環で、国頭村行政職員を対象とした「世界自然遺産候補地における観光客等の受入れ体制及び案内業務等を確立するための職員研修」(室内講義&現場研修)を企画運営した。日程調整や準備に想定以上の時間が掛っており、次年度も担当を依頼されたこともあり、効率良く展開できるように工夫を重ねていきたい。</p>	
管理運営	0.20	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会委員として、学内の環境マネジメントシステム構築に参画し、特にエコロジカル・キャンパス学生委員会の指導教員として学生活動を支援する。</p> <p>②全学学士教育プログラム委員会において、ワーキンググループメンバーとして積極的に関わる。</p> <p>③生涯学習教育研究センター運営委員として、紀要編集委員を務める等センター運営に積極的に関わる。</p> <p>④全学対象の環境総合副専攻の担当教員の一人として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わる。</p> <p>⑤セクシャルハラスメント相談窓口として、当事者が相談しやすい環境づくりを図る。</p>	0.20	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、主に学生委員会の担当教員となり、学生活動(8月環境報告書作成、9月フォトコンテスト実施、10月HESDフォーラム@北海道大学への口頭発表、12月エコプロダクツ2016出展、2月東京大学との交流、毎月のクリーンキャンパス大作戦等の企画・運営・引率)の支援にあたった。</p> <p>②全学学士教育プログラム委員会において、ワーキンググループメンバーとして積極的に関わった。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻及び琉球学副専攻の担当教員として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。</p> <p>④セクシャルハラスメント相談窓口であるが、全学的に窓口の認知度が低く、周知に力を注ぎたい。</p> <p>⑤「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」の開催は無かった。</p>	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		波多野 想		所 属	観光産業科学部 観光科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	<p>(1) 学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学プレ演習」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「文化観光資源概論」「観光景観論」「世界遺産論」を提供する。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」「文化観光資源マネジメント演習」「特別研究」を担当する。</p> <p>(2) 昨年度に引き続き、各科目において、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらない授業を実施する。</p> <p>(3) 中国人留学生(研究生)2名を研究室で受け入れ、研究指導を行う。</p> <p>(4) 研究室における活動をより充実させるため、週一度夜間に読書会を開催する。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努める。</p>		0.20	<p>(1) 目標通り、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学プレ演習」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「文化観光資源概論」「観光景観論」「世界遺産論」を開講。大学院においては「観光資源マネジメント特論」「文化観光資源マネジメント演習」を開講した。</p> <p>(2) 特に、「観光地理学」「文化観光資源概論」「観光景観論」においては、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。</p> <p>また、「観光学プレ演習」では、専門基礎知識の獲得、思考力の強化、発言力の向上を目指して、文献講読を中心に進め、同時に現場視察を行った。「観光学演習Ⅰ」では、南城市玉城船越集落において、地域住民の空間認識を明らかにするための現地調査および地域活動を実施し、その研究成果を観光社会学研究室(越智ゼミ)との合同発表会の場(2016年12月22日)で発表した。「観光学演習Ⅱ」においては、年度を通じて卒業論文の作成を指導した。</p> <p>(3) 中国人研究生2名の研究レポート作成指導を行った。さらに中国人大学院生1名を受け入れ、調査研究指導を行った。</p> <p>(4) 通常(科目としての)ゼミ活動とは別に読書会や現場視察会を実施し、学生の知識増強と思考力強化を図った。また研究生および大学院生に対して、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努めた。</p> <p>(5) その他、社会貢献欄に記載している西原町幸地集落における調査活動にゼミ生に主体的に関与させることで、社会的な実践力の養成にも努めた。</p>		
研究	0.30	<p>(1) 平成27年度より開始している科研費研究「東アジアにおける文化遺産としての鉱山景観のマネジメント」に係る予備調査および本調査を、台湾、韓国、中国等東アジア各国で実施する。</p> <p>(2) (台湾) 新北市立黄金博物館との共同研究(明治30~40年代の金瓜石鉱山の復元)を実施する。</p> <p>(3) 平成25年度~27年度に実施した鳥根県委託研究(「東アジアの鉱山比較研究」)の最終研究報告書をまとめ、シンポジウムを実施する。</p> <p>(4) 研究論文については、学会発表1件、審査付き論文2件以上を目指す。</p>		0.05	<p>(1) 科研費研究「東アジアにおける文化遺産としての鉱山景観のマネジメント」に係る現地調査を、主に韓国で実施した。特に、釜山近郊の太陽鉱山(2016年6月10日~14日)およびソウル近郊の光明洞窟(2016年11月25日~27日)において現地調査を実施し、韓国における鉱山景観のマネジメントに関する現状を把握した。</p> <p>(2) (台湾) 新北市立黄金博物館との共同研究(明治30~40年代の金瓜石鉱山の復元)を実施した。研究論文としての公表は、来年度以降となる。また新北市立黄金博物館とは、新たな共同研究体制を構築し、平成29年度に新プロジェクトが開始されることを決定した。これにより、岩手県釜石の鉱山との比較研究が行われ、金瓜石鉱山の初期の状況がさらに詳細に明らかになることが期待される。</p> <p>(3) 鳥根県委託研究(「東アジアの鉱山比較研究」)の最終報告書がまとまり、鳥根県から2017年3月末に出版されることが決定した。</p> <p>(4) 研究論文については、管理運営欄に記載している学部改組関連の業務量が年度当初の予想を上回り多かったことを理由に、以下の1点にとどまった。</p> <p>① 波多野想「観光景観の生産ー観光景観学の成立のために」『紀要 観光科学』第8号、琉球大学大学院観光科学研究科、2016年12月、pp43-57</p>		
社会貢献	0.30	<p>(1) 南城市で実施しているエコミュージアム設置計画への関与度を高め、南城市観光商工課観光振興係との協力関係構築につとめる。</p> <p>(2) (1)に関連して、ゼミ活動の一環として、南城市玉城船越集落において、ゼミ活動を通じた調査研究とワークショップを開催することで、まちづくりに貢献していく。</p> <p>(3) 平成28年度において、以下の自治体関連委員会を継続的に務めることとなっている。</p> <p>[景観関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー ・那覇市「那覇市都市デザインアドバイザー」 <p>[文化遺産関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」(委員) ・南城市「『南城市の民俗』専門委員会」(委員) ・西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」(委員) <p>[観光関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南城市観光コア施設整備基本構想策定調査委託業務検討委員会 <p>(4) 西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」の一環で、西原町内の集落(幸地)において、本研究が主体となって、地域資源に関する調査研究とワークショップを実施することを西原町と共に計画している。</p>		0.35	<p>(1) 南城市で実施しているエコミュージアム設置計画への関与度を高め、南城市観光商工課観光振興係との協力関係構築につとめた。</p> <p>(2) (1)に関連して、ゼミ活動の一環として、南城市玉城船越集落において、ゼミ活動を通じた調査研究とワークショップを開催し、まちづくりにきっかけ作りを行った。</p> <p>(3) 以下の自治体関連委員会委員について、以下の通り当初の計画を上回る数を務めた。</p> <p>[景観関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー ・沖縄県「沖縄県景観評価システム検討委員会」(委員) ・那覇市「那覇市都市デザインアドバイザー」 ・沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」(委員) <p>[文化遺産関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」(委員) ・沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」(専門委員) ・南城市「『南城市の民俗』専門委員会」(委員) ・南城市「斎場御嶽保存活用計画策定委員会」(委員) ・南城市「南城市エコミュージアム実施計画検討委員会」(委員) ・南城市「南城市文化財保護審議会」(専門委員) ・西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」(委員) <p>[観光関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南城市「南城市観光コア施設整備基本構想策定調査委託業務検討委員会」(委員) ・南城市「南城市観光振興委員会」(委員) <p>(4) 西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」の一環で、西原町内の集落(幸地)において、本研究が主体となって、地域資源に関する調査研究とワークショップを実施した。同事業は、平成29年度にも継続的に実施することが決定している。</p>		
管理運営	0.20	<p>(1) 産学官連携推進機構併任教員としての用務を全うする。</p> <p>(2) 全学委員会(社会連携に関する自己点検・評価委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会)の用務を全うする。</p> <p>(3) 学部将来計画委員会委員および施設管理・安全衛生委員会委員としての用務を全うする。</p> <p>(4) 紀要編集委員として、編集事務の一部を担う。</p>		0.40	<p>(1) 産学官連携推進機構併任教員として委員会に出席した。</p> <p>(2) 全学委員会(社会連携に関する自己点検・評価委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会)の用務を行った。</p> <p>(3) 学部将来計画委員会委員および施設管理・安全衛生委員会委員としての用務を行った、特に前者に関連して、学部改組関連の業務の一端を担った。</p> <p>(4) 紀要編集委員として、編集事務および出版に関する用務を担当した。</p>		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1)本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	飯島 祥二		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	<p>概略:授業科目に関する講義は最新の研究動向を踏まえ応用的側面に配慮した講義方法を検討する。研究演習においては、就職活動等に注力しながらも、定性的研究における論文レビューと定量的研究領域でのメソッド等に留意しながら、観光研究の基礎的手法を教授する。実質的な研究メソッドを教授することにより一層の応用的実務能力の涵養を心がける。以下、具体的に記述する。(1)大学院における指導は、研究発表用論文の作成を中心に進める。大学院在籍中に複数回の研究発表を促す。(2)学部学生における指導は、基礎的分析手法等を中心に研究発表用論文の作成を目指す。その際、定性的観光研究の枠組みと定量的統計手法の会得に注力する。(3)研究指導に際して、県内外の実地での調査を重視し、調査研究の基礎的手法を教授する。</p>	0.35	<p>授業科目に関しては最新の研究動向を踏まえ応用的側面に配慮した教育方法を検討した。研究演習においては、就職活動等に注力しながらも、定性的研究における論文レビューと定量的研究領域でのメソッド等に留意しながら、観光研究の基礎的手法を教授した。具体的な研究メソッドを教授することにより応用的実務能力の涵養を実践した。本年は2編の国内発表論文(学部学生を対象)の作成指導し、論文発表指導を行った。また、研究指導に際して、県内外の実地での調査を頻繁に実施し(平成28年6月から19月にかけて延べ日数25日)、フィールドで研究方法の教授を実施している。その結果、研究指導発表のため学部学生を含め千葉県で開催された観光研究学会に参加し、発表をするとともに観光系国内学会の研究発表に触れた。その結果、今後の研究にたいするモチベーション形成に大変有用であり、観光学の有する実務的側面の重要性の認識にも貢献した。以下、学部学生の研究指導にかかわる発表論文(審査なし)を挙示する。 松井祐樹、豊平真子、直井岳人、飯島祥二(2016)空間における商業施設の魅力特性に関する調査研究—沖縄県那覇市国際通りの空間特性の分類を通して— 第31回日本観光学会全国大会学術論文集 p.133-136(審査なし) 山城健悟 内間みなみ、上原明、飯島祥二(2016)観光目的地における商業施設の学特性関す探索調査 研究—沖縄県那覇市国際通り周辺の事例を通して—第31回日本観光学会全国大会学術論文集.p.177-180 (審査なし) また、本年度は県外大学(首都大学東京、東京都市大学等)などとの研究室単位での交流会と調査研究の共同演習などを実施し、学生の教育研究に有益な教育効果が上がったと思われる。</p>	
研究	0.45	<p>概略:審査付論文の公表を中心に、観光学と環境学の複合領域研究の進展に注力する。今年は、人間-環境系研究等の観光科学へのアプローチに注力したい。また、教育・学生支援と研究とは表裏一体的性質を有し、教育支援に留意しながら研究を展開する。(1)査読付き論文を2本程度公表する。(2)海外ジャーナルにおいて査読付き論文を発表する(3)海外で研究発表を実施し、発表論文を公表する。(4)国内学会で複数本のを論文を公表する。(5)科学研究費助成事業、「歴史的町並みにおける外国人客・住民間の交流と地域理解促進の関係の類型化」平成27年~29年での分担研究等 以上、環境工学から観光学へ貢献する成果に注力する。また、科学研究費助成に応募中である。</p>	0.40	<p>審査付論文の公表を中心に、観光学と環境学の複合領域研究の進展に注力した。今年は、人間-環境系研究等の観光科学へのアプローチに注力した。また、教育・学生支援と研究とは表裏一体的性質を有し、教育支援に留意しながら研究を展開し院生等との共同研究の成果を発表している。本年は、9本の論文(予定を含む)が公表もしくは公表予定である。(1)飯島祥二、直井岳人(2016)観光目的地評価および観光資源管理研究に対する環境科学の役割と応用—Cognitive Componentに関する「環境要素間関連性」を通して—、観光科学 第8号 pp63-72(審査済) (2) Masahiro, Ogawa ,Naoi,Taketo, Iijima,Shoji, Uehara,Akira (2016) How touristic characteristics of other people and places affect visitors' place evaluation, Surrey Conference 2016 Surrey International Conference (審査済) (3) Kazushi, Sakamoto ,Naoi,Taketo,Iijima,Shoji(2016) Visitors' gaze inside and outside historical houses Surrey Conference 2016 Surrey International Conference (審査済) (4) 山城健悟 内間みなみ、上原明、飯島祥二(2016)観光目的地における商業施設の学特性関す探索調査 研究—沖縄県那覇市国際通り周辺の事例を通して—第31回日本観光学会全国大会学術論文集.p.177-180 (審査なし) (5) 松井祐樹、豊平真子、直井岳人、飯島祥二(2016)空間における商業施設の魅力特性に関する調査研究—沖縄県那覇市国際通りの空間特性の分類を通して— 第31回日本観光学会全国大会学術論文集 p.133-136(審査なし) (6) Tomoro Hiruta,Taketo Naoi,Shoji Iijima,Akira Uehara(2017) Relationship between emotional labor of laborers' in shopping districts, its antecedents, and consequences: with focus on cross-cultural adaptability, customer orientation, emotional exhaustion, and job satisfaction Advances in Tourism Marketing Conferences, 2017 Casablanca, Morocco 6th-9th Sep.(査読中) (7) Nakamata, Noi ,Iijima(2017) Effects of touristic elements in photographs on potential visitors' evaluations of a volcano,Proceedings of Travel and Tourism Association(TTRA) 2017Annual Conference., (査読中) (8) 上原朗、直井岳人、飯島祥二(2017) 商業空間の場面特性と促される観光活動の関係、MERA Journal MERAJournal(査読済掲載決定) (9) Akira Uehara, Taketo Naoi, Shoji Iijima(2017) Relationship between Streetscapes and Tourists' evaluation :A case of a shopping district, The art of living together 2017 Casablanca, Morocco 6th-9th Sep.(査読中)</p>	
社会貢献	0.10	<p>概略:日本建築学会の委員会等で、環境分野の進展に寄与し、また、環境工学におけるアカデミックスタンダードの策定に注力する。その他、主に研究領域での社会貢献に注力する。(1)日本建築学会 建築の質感と色彩計画小委員会委員など(2)日本建築学会 都市色彩色彩測定法基準策定WG主査、その他の委員会等(3)学外研究員等、武蔵野大学環境研究所客員研究員など(4)日本建築学会九州支部環境工学委員会、沖縄支所委員等(5)その他の委員会(複数)等における社会貢献</p>	0.15	<p>日本建築学会の委員会等で、環境分野の進展に寄与し、また、環境工学におけるアカデミックスタンダードの策定に注力した。その他、主に研究領域での社会貢献に注力した。(1)日本建築学会 建築の質感と色彩計画小委員会委員など(2)日本建築学会 都市色彩色彩測定法基準策定WG主査、その他の委員会等(3)学外研究員等、武蔵野大学環境研究所客員研究員など(4)日本建築学会九州支部環境工学委員会、沖縄支所委員等(5)その他の委員会(複数)等における社会貢献 また、研究に関わる複数の内外の学会における審査等の委員会において活動を行った。</p>	
管理運営	0.10	<p>概略:管理運営に関しては、教育研究の円滑な実施のために注力したい。(1)全学委員会 総合情報処理センター委員会委員、総合情報処理センター専門委員会委員、男女共同参画室室員、動物実験委員会委員、学生生活委員会委員、その他の委員会委員 (2)学部委員会 就職指導委員会委員、その他学会内の委員会等の委員</p>	0.10	<p>管理運営に関しては、教育研究の円滑な実施のために注力した。 (全学委員会) 学生生活委員会、学生支援指導専門委員会、総合情報処理センター委員会委員、総合情報処理センター専門委員会委員、動物実験委員会委員、ジェンダー協働推進委員会委員、ダイバーシティ推進本部委員会委員、その他の委員会委員 (学部委員会) 就職指導委員会委員、その他学会内の委員会等の委員</p>	
	0.00		0.00		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください</p>	1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	平野 典男		所 属	観光産業科学部 観光科学科		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	<p>1. 今年度新たに開講する宿泊サービス論、交通サービス論については、産学連携体制のもと、学生のサービス経営への関心・理解が高まるように企業実務や最新の業界のトピックスなども取り上げていく。</p> <p>2. URGCCの7つの目標が達成できるよう、ゼミを中心に参加型学習を多く取り入れていく。</p> <p>3. インターンシップにおいては新規研修先の開拓や運営方法の整備に努める。学生からの就活相談があった場合は積極的に助言を行う。</p> <p>4. 学科長として、学年主任や学生から学習面・生活面での相談があれば積極的に応じ、サポートしていく。</p>		0.30	<p>1. 宿泊サービス概論、交通サービス概論の開講 経済産業省のサービス経営人材育成事業の一環として両講義を開講した。産学連携により多彩な外部講師を招いたり、ホテル現場や空港見学を行ったりし、学生の反応も良好であった。また、この取り組みを通じて企業との協力関係がより密となり、今年度初めてJTA社に6名の学生のインターンシップを受け入れてもらったり、包括連携協定を締結したりすることができた。</p> <p>2. 参加型学習の実施 ゼミを中心に参加学習を取り入れ、産学連携による観光サイトの制作や学卒プロジェクトの最優秀賞獲得など一定の教育成果を挙げる事ができた。</p> <p>3. インターンシップ及び就活相談 今年度のインターンシップは11社20名の実施となった。うち4社は新規の研修先であった。今年度はインターンシップ先から内定を得た学生も出ており、これまでの取り組みについて一定の成果が出たものと捉えている。またゼミ生を中心に就職活動に対するアドバイスを行った。ゼミ生5名の内定率は100%で、うち4名が観光業界に内定している。</p> <p>4. 学習面・生活面のサポート 学年主任と協力し、転ゼミや退学を希望する学生との個別相談を行った。</p>		
研究	0.20	<p>1. 契約理論の観点から、ホテルのリブランドに関する研究を行なう。</p> <p>2. 航空産業におけるアライアンス問題、日本におけるLCCの展開等について研究を進める。</p> <p>3. 早稲田大学会計研究所の招聘研究員として同研究所の研究会参加及び研究叢書の執筆を進める。</p>		0.15	<p>1. ホテルリブランドに関する研究 本研究に関連する先行研究の調査を進めている段階である。</p> <p>2. 航空産業に関する研究 ツーリズムホスピタリティ研究会の研究者と共同して「(仮)航空産業概論」の執筆を行っている。既に担当章は脱稿しており、本年7月に出版予定である。</p> <p>3. 会計研究所研究叢書の執筆 早稲田大学会計研究所の研究者と共同で「(仮)続・会計情報のモデル分析」の出版を予定している。現在担当章については第2稿まで脱稿済み。現在最終稿の作成に向けて作業を進めている。</p> <p>4. その他 共著論文「沖縄県における環境税の導入に関する考察」(査読有)が『観光科学』第8号に掲載された。</p>		
社会貢献	0.20	<p>NPO法人シニアマイスターネットワークが厚生労働省から委託して進めるホテル産業職業能力資格の国家資格化に向けて、テキスト執筆、審査を行う。</p>		0.20	<p>1. ホテル産業職業能力資格の国家資格化への取り組み 本年1月及び2月に実施した試行試験の結果を踏まえ、3月末に厚労省へ報告し国家検定へ正式申請する予定。受験用テキスト執筆をおこなったほか、講義科目「ホテル経営論」を、その資格認定講座の位置づけにし、31名の学科試験合格者を輩出した。</p> <p>2. その他 沖縄本島地域タクシー準特定地域協議会会長としてタクシー料金値上げに関する会議の座長を務めた。また、本学地域連携推進機構が開催した南城市の「若者の定住と働き方を考える地域円卓会議」に着席者として参加した。</p>		
管理運営	0.30	<p>1. 学科長として学科の円滑な管理運営を心がける。</p> <p>2. 各委員会活動に積極的に取り組む。</p>		0.35	<p>1. 円滑な学科運営 新学部設立に向けて学科の意見集約に努めた。また、准教授2名の教授昇格に向けて学部・学科内の意見調整を行った。</p> <p>2. 各委員会活動への積極参加 人文社会科学系新学部検討委員会を始めとする新学部設立に向けた各種会議や学部予算委員会などに出席した。</p>		
	0.00			0.00			
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片岡 英尋	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	昨年度に引き続き「観光学概論」の講義内容につき「基礎演習」担当 教員と連携の内容の向上を図る。 最終年次のゼミ生と留学から復帰するゼミ生への対応が一面的にな らないように留意し、希望の進路に進むサポートを充実させる。		0.40	後期の基礎演習の講義を担当した為、観光学概論の講義内容との連携が 進んだ。留学から復帰したゼミ生と卒業予定者、3年次 2年次の融合的な 活動を増やすことができた。卒業生は全員が進路を決定している。			
研究	0.40	科研費研究の成果を、研究協力者の西村先生とまとめ、紀要等への記載を目指す。 また、前回の科研費研究の成果をまとめつつ、次回の科研費獲得のための企画を 行う。		0.30	研究協力者の西村先生の成果取りまとめを継続中である。新たに、研究科 修了生の上島氏の論文を起用掲載に向けて準備中である。			
社会 貢献	0.10	今年度も、うるま市中小企業振興審議会の会長を拝命しており、同 市の中小企業の活性化に注力する。		0.10	うるま市中小企業振興審議会の会長を拝命しており、中小企業の活性化 施策を策定中である。次年度も会長に留まる予定である。			
管理 運営	0.20	委員会委員として、管理運営に付加価値をもたらす。		0.20	図書館関連の学部委員として学術情報基盤の整備に尽力した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				